

平成23年度 沖縄県振興審議会
離島過疎地域振興部会議事要旨
第1回平成23年5月11日（水）

第3章 基本施策

3 希望と活力にあふれる豊かな島を目指して

(11) 離島における定住条件の整備

ア 交通・生活コストの低減

- 離島航路は県道や国道と一緒に、住民の生活道路です。道路を造るときに建設補助があるように、新造船時における補助等ができないか。
- 観光客の娯楽と病院や銀行や生活用品の買出しなど生活での利用は分けられるべきというのが大きな根本的な考え方で、離島住民の船賃向けの割引を県の方でできないか。
- 輸送費を措置しても、業者が上乗せし、結局、住民に跳ね返らないことが現状なので、「ふるさと振興券」のように、直接住民に支援し、生活物資の購入にしか使えない様なシステムを、離島住民向けにできないか。

イ 生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上

【教育・文化】

- 「高等教育の機会を離島においても保障する」少なくとも宮古・石垣はこれくらいのことを考えて書いてもいいのではないか。
- 「複式学級の問題の解消」と「問題」を入れたらスムーズに行くのではないか。
- 「複式学級の問題の解消」は、「複式学級の解消」と全然意味が違う。複式学級が悪いわけではなく、いい面、悪い面があり、いい面をなるべく伸ばし、悪い面を改善していくような方向でこの複式学級が置かれている問題の解消を図るとの意味合いがここに伝わると思う。
- 「複式学級」を解消するのか、継続するのは、県が進めるべきではなく、当該市町村あるいは地域の判断にゆだねるべきなので、「複式学級の解消」という言葉を削除したほうがよい。
- 統廃合が可能なところは、県の教育委員会レベルの判断で進めるべき。島によっては、ある程度人件費の節約になる。そこに高校の分校、又は、職業訓練校などを設置する方向がいい。
- 船浮みみたいな小さな島は、「複式学級の解消を図る」ことができないの

で、「複式学級を運営・教育できる教員の質を向上させる」とか、「体制を作る」ことが重要。

- 合併・統廃合できないところは、「複式学級の授業の作り方」、「学級経営の仕方をきちんとアップできる体制作り」が県教育庁の役割ではないか。
- 船浮や鳩間など複式学級が避けられない学校は、複式学級のモデル校とし、教員を養成する施設に指定するなどの支援をしながら、克つ、優秀な教員を育てるというダブルでやっていけないか。
- 離島での複式学級は、実は複式学級の授業作り、あるいは学級を経営すること、さらに、離島の実情を知ることができ、教員の資質能力をアップさせる。本島に帰っても非常に効果的なので、肯定的に30歳手前の能力のある人を順番的に配置するなど、積極的に取り入れてほしい。
- 戦後しばらくは、琉大の分校が八重山とかに置かれ、高等教育の機会の公平の保障という考えがあったことから、この機会の保障のために、「県内大学及び県立大学の連携の基にICTを活用したサテライト講義の提供」や、「サテライト教室の整備」に取り掛かってもいいのではないか。
- 既に琉大では、サテライトのプログラムを宮古、石垣でかなりやっているので、このサテライトの教室をさらに発展させることができないか。
- 介護人材が非常に不足している中、離島では、介護の講義を受けるために仕事を休み沖縄本島まで行くような状況にあるので、福祉分野でのサテライト講義の活用、拡大することは非常に有効である。
- 県立芸大の石垣分校とは言わなくても、常設的な研究機関の設置を推進するべき。

【医療・福祉】

- 特に小規模離島は、高齢者率が30%超える離島も多く、支える家族等、介護の問題がこれから非常に大きくなると思うので、「介護」を明記して頂きたい。
- 「運営費の補助サービス提供」とあるが、利用者の立場で、「サービス利用者に対する負担軽減等」を加えてほしい。
- 離島への定住と離島振興を図るときや学校関係者や旅行関係者が観光を推進する場合は、病院や診療所が有るか無いかで大きく判断が左右されるので、「離島過疎地域における診療所運営への補助」を追加してほしい。
- 宮古、八重山などに介護の専門学校の分校を作れないか。
- 石垣島でも介護施設はあるが、川平地域以北の集落は非常に小さな集落

で、街に出てくるのに40分、50分時間を要す。そこに住んでいる人達の介護サービスが途絶えている現状もあるので、「離島」と限定するのではなく、そういう地域に、高齢者も障害者も一体となったサービスが受けられるなど柔軟に考えるべき。

ウ 交通基盤の整備と交通ネットワークの充実強化

- 新石垣空港が平成25年供用開始が予定されているが、新石垣空港から石垣の市街地までは車で30分位掛かるが、追い越し車線も無く、大渋滞が予想される。2年で道路建設は絶対間に合わないと思う。ここで、視点の交換、新たに道路を造るのではなく、空港近くに浮き桟橋を造り、船会社を支援する意味でも、空港と離島ターミナル間を輸送してはどうかとの提案。
- 今活用されていない県内の離島が抱えている空港の新たな活用方法を模索するべき。

エ 過疎・辺地地域の振興

- 非常に上から目線で、ハード・箱もの至上主義で、都市型生活が善で、先進的で遅れた僻地離島の格差を是正するのが県の役割だというニュアンスに読めるので、離島の生活や環境伝統に対して寄り添った書き方、尊敬する書き方が必要ではないか。
- 民間の看護学校の学生を定着させる、或いは、離職防止のための修学資金とかあるが、民間だけに限らず県立にも適用してほしいと思う。

その他

- 新たな計画の基本的考え方の中に、基本的な哲学として「離島」という概念を消滅させていいのではないか。「島しょ」という言葉、あるいは別の概念として提案し、発想自体を根本的に変えるという在り方があってもいい。
- 「離島」という用語の使い方について視点が違うのではないかと思う。沖縄県全体を指すときは「島しょ」、島々のことは「離島」、各法の定義で沖縄島以外の島が「離島」だと思うが、個人的には島の中から見ていくという意味で「島しょ」、あるいは単に「島」、「島しょ地域」と言うことで統一した方がいい。
- 「離島」という言葉を「島しょ」という言葉で統一したら、ビジョンの中で全体の表現を変える事にならないか。
- 例えば「離島の新たな展開」は「島しょ地域の新たな展開」、「離島力発揮」は「島しょ力」、「有人離島」は「有人島」にするべき。

- 一般的には島の定義は、海洋法に関する国連条約で規定され、島の大きさで定義はない。「島」あるいは「島しょ」、「島しょ地域」、小さいというところを強調し「小規模」を付けてもいい。
- 5つの将来像の5つとも「島」と付けている。この「島」の中に沖縄本島も含めての話だと思うので、表現上難しいと思うが、そこは工夫してもらえればいい。
- 「離島」は遅れた地域でそれを振興させるという哲学の元に離島振興法ができているということの説明して頂いたので、それをそのまま継承するのはまずい。
- 新しい計画は法律も変えようという趣旨、意気込みで取り組んでいるので、新しい概念の元に、新しい言葉、違う哲学を含んだ言葉を使った方がいい。
- 個別具体的な補助金の名称が出てくる場合と、全く何やるかわからないようなものも混在している。基本的考え方には、基本的な考え方あるいは基本的な目標、理念、哲学、そういったものを書けばいいのではないか。
- 沖縄県内の島の農家が激減し、自ずから食肉センターの経営が成り立たない現状にある。運営費をなんらかの食の安全とかの形で県で負担できないか。
- 格差是正という言葉が、ここ10年以上前から使われ、いい加減にこの言葉を早く取ったほうがいい。
- 石垣島は、石垣島を消費して定住しない人達のために人口があふれてしまって大きな問題がおきるのではないかなという気がする。竹富島がやっている、定住する意思がある人を促進するようなシステムを参考にしながら、「島の市民権」みたいなのを県の条例、あるいは、市の条例で規定し、土地を勝手に売らないような対策をするべき。
- 八重山はかつて、津波により何万人という方が亡くなっている。今度の東日本大震災を受け、離島域を含めた、津波やそれらに対する防災対策、耐震対策の項目を加えてほしい。

以 上